



EL SALVADOR

学校名：埼玉県立大井(ふじみ野)高等学校

氏名：花田 洋司

[担当教科：地理歴史]

- 実践教科等：地理 B
- 時間数：5時間(6時間)
- 対象生徒：高校3年生
- 対象人数：28人 35人

### [1]単元名

エルサルバドルに鉄道ができた

### [2]単元の目的/目標(背景を含む)

日本は開発途上国の社会・経済の開発を支援するため、多くの活動を行っている。国際貢献の立場を理解することで、我々の住む地域を振り返りながら日本と重ね合わせ、多面的・多角的な視点から将来の主体的な社会参画への自覚と資質を養う。本授業実践では、以下の3点を目的とした。

- ・シュミレーションを通して国際貢献の立場を理解する。(→日本に生まれた私たちにできること)
- ・我々の身近なところから、自らが主体的に行動し社会に参画する資質や能力を育成する。  
(→地域貢献から始める国際貢献)
- ・地理という学問を学ぶ意義を考える。(→アメニティの追求とは)

学習指導要領には、「持続可能な社会の実現」「言語活動の充実」の観点が盛り込まれている。対象生徒は1年次からここまで、他教科においても基礎学力の定着に主眼を置いてきたため、グループ活動による参加型学習や提言・発表の経験は少ない。

本授業実践は、総合的な学習の時間で「国際貢献で活躍する日本人～IN El Salvador」と題した講演と、前単元でラテンアメリカ地誌を行い、関心・意欲を高めたうえで、探究活動や問題解決能力の習得を図った。また、本校生徒の進路は消極的な地元志向の傾向にあるため、広い世界へとチャレンジしてほしい思いと、地元地域の良さにも目を向けてほしい思いを授業に込めた。なお、次の単元では、各自テーマを設定して国・地域調査、地域への提言を予定している。

### [3]単元の構成

※添付は、[8]使用教材(写真/図などの実物)に掲載する。

時間	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の 観点と方法
0	講演【国際貢献で活躍する日本人 IN El Salvador】 (総合：3学年)	エルサルバドルの概況と抱える課題、派遣されている日本人を紹介する中で、自らの在り方生き方を考える。	・パワーポイント ・エルサルバドルの物品 ・メッセージビデオ 添付 1	青年海外協力隊の方々へのメッセージを書く。
1	【エルサルバドルはこんなところ】～現地調査～ 自然環境、経済、文化、国民性を考察させる。	・シュミレーションの概要説明 ・グループ活動(フォトランゲージ)	・シュミレーションの概要が書かれたカード添付 2 ・模造紙と写真	・グループ活動の観察と発表 ・ワークシート
2	【我々の利用する鉄道や駅】～日本の鉄道技術～ 身近な地域を改めて見直し、課題を見いだす。	・グループ活動(ブレインストーミングとグルーピング)	・日本の鉄道と駅周辺の写真	・グループ活動の観察と発表 ・ワークシート
3	【鉄道はできた。さて何が必要?】 ～プロジェクトの成功へ～ 課題を見だし、資料を活用し、発表に向けての諸活動を充実させる。	・グループ活動(ランキング) 各グループに与えられたプロジェクトを、成功へ導くためのプランをまとめる。	・シュミレーションの概要が書かれたカード添付 2 ・ランキングシール	・グループ活動の観察 ・ワークシート
4 5	【発表】～プロジェクトの支援計画～ 【地理という学問を学ぶ意義】～アメニティの追求～	・グループ発表 ・国際貢献とは、社会参画とは ・快適環境を広める取組	・メッセージビデオ ・ワークシート 添付 3	・グループ発表 ・ワークシート

#### [4]授業の詳細

※添付は[8]使用教材(写真/図などの実物)に掲載する。

#### 1 時限目:【エルサルバドルはこんなところ】～現地調査～

##### (1)シュミレーションの概要説明 添付2

「中米の日本」と呼ばれるエルサルバドル。それまでバスしかなかったこの国に、日本のODA(政府開発援助)で鉄道が建設されました。エルサルバドル政府からの要請で、日本の経験や技術で、鉄道を永く発達させるプロジェクトが実施されました。あなたは、JICAから任命派遣された専門家です。  
(ワークシートから抜粋)

本授業実践は、5～6人のグループ学習の形態をとった。各グループに与えられたプロジェクトを、成功へ導くためには何が必要で、日本の技術、考え方をどのように生かしてエルサルバドルに支援・貢献できるかを考えるシュミレーション授業である。

##### (2)グループ活動(フォトランゲージ)

本時の学習活動は、エルサルバドルの写真から、この国の特色を知り、日本との共通性や異質性に着目し、興味・関心を深めることである。

フォトランゲージの手法を用い、模造紙に3～4枚を一組にしてこの国の特色を示す写真を貼り付け、各グループに配布し、気づいたことを書き込ませた。ローテーションによって他グループからも‘観察’‘読み解き’の書き込みを得て、多面的・多角的な視点で考察させた。次に、グループで話し合い、写真から想像するストーリーをクラス全体に発表させた。あくまで想像するストーリーであったが、優れた‘観察’‘読み解き’にクラス全体がエルサルバドルの自然環境、経済、文化、国民性的一端を共有することができた。

最後に、写真の本当のストーリーを各グループに配布し、模造紙に貼り付けて「現地調査」を終了した。自分が「専門家として派遣されるエルサルバドル」について理解を深めた。

- ・各グループに配布したフォトランゲージの本当のストーリーのタイトル
- A 首都サンサルバドルの生活水準は高い
- B エルサルバドルの交通事情
- C 観光都市スチト
- D 東部の都市ラウニオンの様子
- E 自然災害に対する防災能力
- F 教育力 勤勉な国民性

#### 2 時限目:【我々の利用する鉄道や駅】

～日本の鉄道技術～

##### (1)グループ活動(ブレンストーミングとグルーピング)

本時の学習活動は、自分が専門家として派遣されるエルサルバドルに対して、日本のどのような技術や考え方が支援として生かせるかを考察することである。身近な地域を再認識・再発見することで、その有用性に気付いたと思う。

時間の都合で実施できなかったが、学校周辺の駅で地域調査ができれば効果的であった。

ブレンストーミングとグルーピングの手法を用い「日本の鉄道」というお題で、思いついたままを、付箋に記入させた。その際、黄色付箋には鉄道そのものに関する事、青色付箋には駅構内、駅周辺に関する事を記入させた。次に、記入された付箋を分野(項目)ごとに分け、「日本の鉄道」を短く、端的にまとめるよう指示し、発表させた。

生徒の活動の様子 1時限目

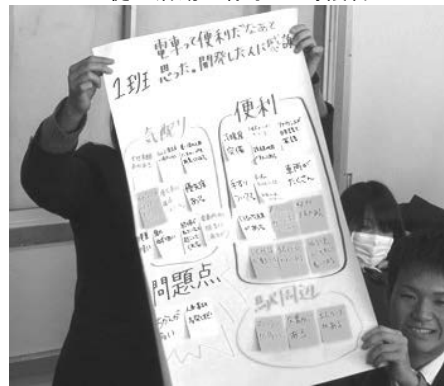


**ココがポイント!** ～仲良く楽しく～  
最初のグループ活動であり、話し合いに慣れていない様子に対し、自由で活発な意見を促した。本時での発表は、最後4,5時間目のための練習と位置づけた。

#### 生徒の発表から

- ・市場のぐしゃぐしゃな様子と日本で見るようなショッピングモールの綺麗さが対照的だった。
- ・美しい町並みと自然のなかに内戦の跡が残っている。

生徒の活動の様子 2時限目



**ココがポイント!** ～人の意見に批判禁止～  
ここでも自由な意見を多く出させるよう促した。発表については、ポイントを押さえて短くまとめるよう指示し、見てわかりやすく、かつ、楽しくまとめられているグループを高く評価した。

#### 生徒の発表から

- ・日本の鉄道は芸術である
- ・駅は生活の一部で人が集まる便利な場所。
- ・日本の鉄道は便利をとことん追求している。
- ・生活の足となり、ロマンが溢れている。

### 3 時限目：【鉄道はできた。さて何が必要？】～プロジェクトの成功へ～

#### (1)プロジェクトの概要説明

5つのプロジェクトを用意し、それぞれについて概要を説明した。そのうえで、各グループに担当するプロジェクトを決めさせ、日本の技術、考え方をどのように生かしていくかを派遣される専門家として、国際協力の立場で話し合わせた。

#### プロジェクト名 **添付2**

- ①高架鉄道・通勤電車(首都近郊)
- ②長距離電車・貨物列車(海岸沿い都市)
- ③都市圏、駅と周辺広場開発プロジェクト
- ④地方都市観光振興プロジェクト
- ⑤港湾都市産業活性化プロジェクト

注)これらをスライドで説明した。

#### (2)グループ活動(ランキング)

本時の学習活動は、エルサルバドルに鉄道が建設されたことにより、専門家になったつもりで日本からどのような支援ができるかを考察するものである。プロジェクト成功に向け、前時までの学習内容を踏まえ、エルサルバドルの各地に生起する現象に合わせて様々な視点で考察する必要がある。

ランキング(順位付け)の手法を用いてまとめさせた。まず、各グループに、前時で出た様々なキーワードを短冊状にしたランキングシール(参照：生徒の活動の様子 3)を配布し、ランキングさせる。その際、配布されたキーワード以外を追加しても良いことにし、工夫しながらまとめるよう指示した。次に、レイアウトや構成を決め、模造紙にランキングシールを貼り付けながら、文献資料や写真資料を活用し発表準備に取り掛かった。

調べるきっかけとして、資料は、こちらでいくつか用意した。また、生徒が主体的に取り組むよう、放課後や休み時間などの授業時間外を活用し、まとめるよう指示した。

#### 4・5 時限目：【発表】～プロジェクトの支援計画～

本時の学習活動は、担当するプロジェクトの支援計画を発表させた。発表は、これまでの3時間で作成したフォトランゲージ、グルーピング、ランキングの3枚の模造紙を使用することを基本とした。エルサルバドルの国旗を掲示し、発表者にはエルサルバドル代表のブルーのサッカーユニフォームを着させることで、雰囲気を出した。

#### ココがポイント！ ～一言でまとめると～

- 以下のように発表すると良いと説明した。
- 1. エルサルバドルの、この地域は〇〇です。
- 2. 日本には、鉄道や駅には〇〇がある。
- 3. だから、エルサルバドルにも広めたい。
- 4. まとめの一言

#### 【地理という学問を学ぶ意義】

全グループの発表後、国際貢献とはどのようなことなのか、という投げかけを、ここまでの学習活動を振り返って考えさせた。考えるきっかけとして、現在、エルサルバドルで青年海外協力隊の青少年活動として高等技術専門学校で活動する千村友樹隊員からのメッセージビデオを流した。そのうえで、地理を学ぶ意義について考えさせ、本単元をまとめた。

最後にワークシート**添付3**を記入させた。

#### ココがポイント！ ～用意した主な文献資料～

- 『たんけんしよう!駅の大図鑑』川島令三  
PHP 研究所 2006年
- 『はやいぞ特急電車』成美堂出版 2008年
- 『世界の駅 Stations』ピエ・ブックス 2009年
- 『JICA's World 2010No.27』国際協力機構  
写真や絵が多く平易なものを用意した。

生徒の活動の様子 3 時限目 ランキングシール



千村隊員からのメッセージビデオ



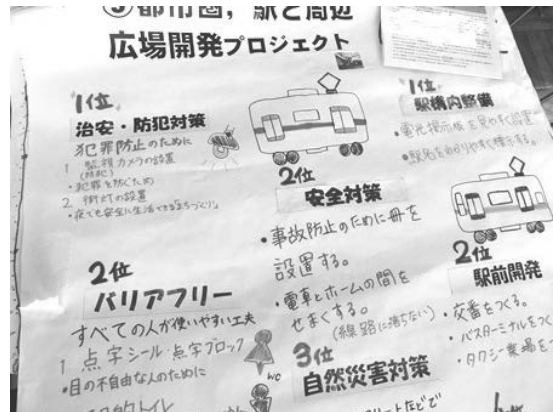
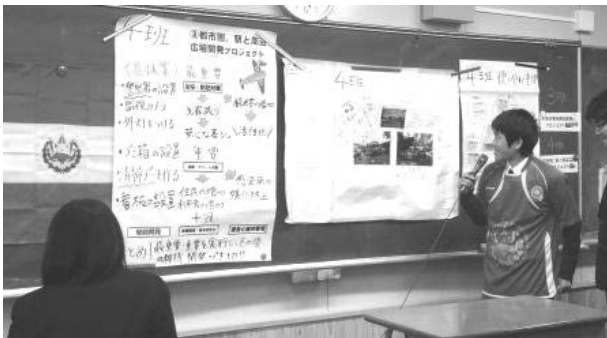
## 【5】児童・生徒の反応/変化

### 4・5 時限目：【生徒の発表から】

注)①～⑤はプロジェクト名の番号

- ①・鉄道を身近に感じてもらえるように、安全の配慮、点字ブロックやスロープの設置を行う。
  - ・駅が発展すればそこを中心に経済が活性化して失業者が減るだろう。そうすれば自然と治安も良くなっていくだろう。
  - ・地震が多いため、高架橋には耐震性が求められる。
- ②・海沿いを走るのので特に津波や高波、暴風雨に対する自然災害への安全対策が必要である。
  - ・防災活動や万一の備えが必要で、日本の防災訓練のようなものを定期的に行う。
  - ・路線を延長すれば隣国からエルサルバドルに訪れる人も増え、さらに活性化されると思う。
- ③・駅は国を象徴する建造物である。よってこの国最高の外観と設備を備えた駅を建設する。そこから防犯対策やマナーアップ、清掃活動などの意識が高まる。
  - ・駅を拠点に、防犯、街灯設置、クリーン作戦を行う。そこから町全体に整備を広げていく。
- ④・街すべてを巻き込んで活性化させ、安全な環境を作っていかなければならない。美しい街としてアピールし、特に観光地にはマナーアップ、清潔で快適な施設、治安が欠かせない。
  - ・ここでしか買えない特産品や電車マスコットをつくり売り出していく。
- ⑤・地方都市の治安は決して良くない。最重要は安全対策で、自警団などをつくり、地道な活動を続けることが大切だ。
  - ・地元や現場の人たちでの話し合いや知恵、考え方を生かす。例えば海の幸を生かしたレストランを開いたり、マリンスポーツのイベントを充実させたりする。また駅周辺にショッピングモールを建設し産業活性化を図る。

生徒の活動の様子 4・5 時間目



### 【ワークシート感想欄から】

- ・僕は来年から自動車整備の専門学校に通います。エルサルバドルでの活動に自動車整備に関するものがあり、特殊な職業ばかりではなく僕でも知っている職業が多くあることを知りました。「皆さんの力を必要としている人がいる。」(千村さん)の言葉が響きました。
- ・もしエルサルバドルに鉄道を走らせるとしたら…と考えたとき、まずは現地の人の性格や文化を理解しなければいけないと思いました。今はエルサルバドルに鉄道を走らせる計画はないけれど、いつか走る時が来るなら、私たちの考えを参考にしてもらえればいいなと思いました。
- ・自分たちでエルサルバドルを良くしようと考えると、些細なことでもグループから色々なアイデアが出て、自分では考えられない意見であふれた。このことは、国際協力そのものにも当てはまると思った。

- ・エルサルバドルのことを調べてみると、勤勉で真面目な国民性と、一方でスリや脅迫など治安が悪いことがわかりました。どうすればエルサルバドルが良くなるかを考えたら、皆さまさまざまな意見が出ました。その話し合いを公表することで、さらに考えさせられることがあった。
- ・青年海外協力隊の千村さんの「日本人に生まれてきたことが財産」という言葉に、自分自身が勇気づけられた。まずは自分たちができることから考えてみたい。

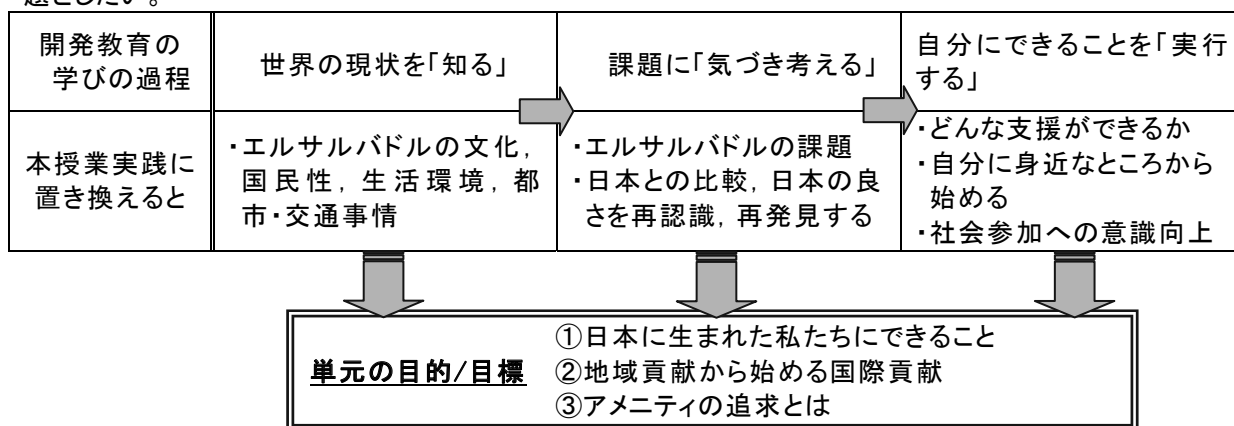
## 〔6〕授業実践の成果と課題

将来の主体的な社会参画に向けて

これまで私が授業等で行ってきた国際理解教育において、その後の生徒の感想録には、普段の授業よりも楽しく、多く知ったという内容の意見が多かった。しかし、その国際理解教育の多くは、資料を用いた外国事情にすぎず、地理の目標「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」に対し、生徒の知識・理解に物足りなさを感じていた。

そこで、開発教育の【世界の現状を「知る」】→【課題に「気づき考える」】→【自分にできることを「実行する」】という学びの過程で、参加体験型・課題解決型の学習を取り入れ、生徒に正しい知識を授け、正しい行動が伴うよう地理教育の立場から実践していきたいと考えた。この学びの過程によって、課題解決はもちろん、多面的・多角的な考察、社会参画への意識向上に大きな成果があった。

本授業実践は、私にとって実験的なものだったため、より明確な目標でさらに実践を重ねることを課題としたい。



## 〔7〕参考文献(引用文献・参考資料)

『開発教育実践ハンドブック 参加型学習で世界を感じる』(特活)開発教育協会 2003年  
『ANNUAL REPORT 国際協力機構 年次報告書 2010, 2011』(独行法)国際協力機構

## 〔8〕使用教材(写真/図などの実物)

添付1)メッセージビデオの要旨



添付2 シミュレーションの概要が書かれたカード 左下:表面 右:裏面



以下では、首都サンサルバドルを中心とした都市圏での経済活動と活性化と人口の集中に伴い、交通渋滞や交通事故、生活環境の悪化が深刻な社会問題となっています。また、地方都市には産業が少なく、農村から都市へ仕事を求めて移住する人々が多いのも、原因の一つです。

その状況下、自家用車から、唯一の公共交通機関であるバス、に加え鉄道への転換を促進する交通政策は、交通渋滞などの交通問題や様々な環境問題や社会問題を緩和するものとして重要です。

五年は、地球温暖化の問題への取り組みも求められ、鉄道建設の機会に、様々なインフラストラクチャーを整備し、産業の活性化と都市圏での経済発展のきっかけとして、このプロジェクトは重要で、

鉄道建設には、技術・資金面で日本の支援を得て、ほぼ完成となりました。以下で日本の豊富な移動手段として安全、快適に提案するために、また経済的自立のために、現地の人々と協力体制を築き人材育成ができるのか、日本の経験や技術を生かせるのが、プロジェクト成功の鍵です。

- ① 高鉄・通勤電車
- ② 長距離電車・貨物列車
- ③ 観光観光電車
- ④ 都市圏、駅と周辺広場開発プロジェクト
- ⑤ 地方都市観光振興プロジェクト
- ⑥ 港湾都市産業活性化プロジェクト

添付3 ワークシート

日本に生まれながらにしてエルサルバドルに研修に来た。 < <

地理B(1) H24.3年 (第2) 査氏名(1) (1) (2) (3) (4)

タイトル エルサルバドルに鉄道ができた 3 期

「甲斐の日本」と呼ばれるエルサルバドル。それまでがなかったこの国に、日本のODA(政府開発援助)で鉄道が建設されました。この国からの要請で、日本の経験や技術で、鉄道を築く必要とされるプロジェクトが実施されました。あなたは、JICAから任命された専門家です。

月日( )	場所	今日のタイトル	メモ	活動方法	自己評価
11月14日(水)	教室	1. 現地調査	エルサルバドルはこんなところ	アポイント	ランゲージ
11月19日(月)	教室	2. 日本の鉄道 我が国の利用する鉄道や駅周辺	④ 地方都市観光振興プロジェクト	アポイント 付箋 ペン	
11月26日(日)	教室	3. プロジェクト計画の～⑥ 鉄道はできた。さく何が必要?	⑤ 地方都市観光振興プロジェクト	討論 発表準備	
12月3日(日)	放課後等	各グループで発表に向けて準備			
		4. プロジェクト発表(1)		発表	
12月10日(日)		5. プロジェクト発表(2)		発表	

プロジェクトのまとめ

・プロジェクト名(タイトル) ・概要 ・専門家としての役割 ・活動内容(日程) ・期待される効果 等

12月10日(日)まで

青年海外研修員 千村 友樹 氏

① 高鉄・通勤電車

② 長距離電車・貨物列車

③ 観光観光電車

④ 都市圏、駅と周辺広場開発プロジェクト

⑤ 地方都市観光振興プロジェクト

⑥ 港湾都市産業活性化プロジェクト

1班 評価記入表	プロジェクトナンバー	2班 評価記入表	プロジェクトナンバー																														
<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>良</th><th>悪</th></tr> <tr><td>デザイン</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>内容</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>インパクト</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>納得できる</td><td>4</td><td>3</td></tr> </table>	評価項目	良	悪	デザイン	4	3	内容	4	3	インパクト	4	3	納得できる	4	3	3	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>良</th><th>悪</th></tr> <tr><td>デザイン</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>内容</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>インパクト</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>納得できる</td><td>4</td><td>3</td></tr> </table>	評価項目	良	悪	デザイン	4	3	内容	4	3	インパクト	4	3	納得できる	4	3	3
評価項目	良	悪																															
デザイン	4	3																															
内容	4	3																															
インパクト	4	3																															
納得できる	4	3																															
評価項目	良	悪																															
デザイン	4	3																															
内容	4	3																															
インパクト	4	3																															
納得できる	4	3																															
<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>良</th><th>悪</th></tr> <tr><td>デザイン</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>内容</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>インパクト</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>納得できる</td><td>4</td><td>3</td></tr> </table>	評価項目	良	悪	デザイン	4	3	内容	4	3	インパクト	4	3	納得できる	4	3	3	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>良</th><th>悪</th></tr> <tr><td>デザイン</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>内容</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>インパクト</td><td>4</td><td>3</td></tr> <tr><td>納得できる</td><td>4</td><td>3</td></tr> </table>	評価項目	良	悪	デザイン	4	3	内容	4	3	インパクト	4	3	納得できる	4	3	3
評価項目	良	悪																															
デザイン	4	3																															
内容	4	3																															
インパクト	4	3																															
納得できる	4	3																															
評価項目	良	悪																															
デザイン	4	3																															
内容	4	3																															
インパクト	4	3																															
納得できる	4	3																															

発表と納束の感想 12月 日( )まで

[9] 教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

日本人にとってエルサルバドルは、「遠い国」です。この研修がなければ訪れることのなかった現地での体験談や、「遠い国」での見聞は、話す側も聴く側も心躍ります。しかし授業で扱うときには、イベント的な体験授業、外国事情、ましてやエルサルバドル紹介で終わらせたことはありませんでした。地理の授業は、ともすると世界やその地域のことを知る、知識注入型に陥りやすい科目です。私は、地理を学ぶ意義を、現代世界の地理的認識をもとに、自分が社会の一員としてどう在るべきかを考え、主体的に身近な地域から世界まで「アメニティ(快適環境)の追求」をすることだと考えています。特に、これから社会に出る高校生は、家族、そして地域を見直しながら、それらを自分の財産として視野を広げ、社会参画への姿勢が大切です。

私が本研修を終えて決意することは、見聞の広さを語るのではなく、見聞を経験にして、地域づくりから世界づくりへ、そして学校教育に還元していくことです。